

2019
0316
No.
38



すずしん



子ども・若者重点主義の政策！

児童相談所の体制拡充が急務

またもや、親の虐待により子どもが亡くなる事件が発生しました。何故、同様の事件は繰り返されてしまうのでしょうか？

根本的には、児童虐待をしてしまう親が誕生しないようにすることが必要です。しかし、それには包括的、社会的な取り組みが必要であり、恐らく相当の時間を要します。そこで次善の策として、児童虐待の兆候ができる限り早期に発見し、被害が深刻化する前に子どもたちを救うことが不可欠です。その役目を果たしているのが児童相談所や学校・教育委員会ですが、千葉県野田市の小学4年生、栗原心愛（みあ）さんが亡くなったケースでは、虐待の状況をそれなりに把握していたにも関わらず、最悪の事態を防ぐことが出来ませんでした。

報道を見る限り、児童相談所側に判断ミスや不手際があったようですが、その背景には、急増する児童虐待等の相談件数に、児童相談所の体制が全く追いついていない状況があるようです。

例えば、政令市（静岡市・浜松市）を除く静岡県の児童相談所（計5か所）の児童福祉司は平成29年度現在で計48名ですが、児童虐待、障害、非行等に関する相談件数は同年度、計5188件でした。つまり、**児童福祉司一人当たり、百件を超える相談が寄せられている**のです。県では平成30年度に5名、そして来年度予算案でも更に5名増員する計画ですが、相談件数が同数でも一人で年間90件ほど対応しなければなりません。明らかに過酷な状況であり、児童相談所の体制拡充は正に急務なのです。

若者を救うLINE相談体制拡充の為に更なる投資を！

県内の自死（自殺）者数は、平成21年に854人だったのが、平成29年には588人まで減少しています。全国でも同様に減少傾向です。しかし、**県内の19歳以下の若者における自死者数は残念ながら減少しておらず**、最近5年間でも13人（25年）、12人（26年）、14人（27年）、13人（28年）、18人（29年）となっています。

こうした若者の自死を無くすため、県は昨年から、無料通信アプリLINEを利用して専門家が相談に乗る取り組みを始めています。昨年は夏休み明け前の8月下旬に実施。予想以上の相談が寄せられたことから、今年は3月20日から31日（23、24日を除く）にLINE相談を実施。そして、来年度は5月、8月、3月の長期休暇明け前後の平日10日間と、6月から3月の土日祝日に実施します。

以前からLINE相談の導入を主張してきた私もこうした取り組みを高く評価していますが、時期や時間を限定してではなく、24時間365日行なうべきと考えます。なぜなら、悩み始めてすぐにLINE相談に打ち明けるとは限りません。長期間悩み続けて最後の拠り所としてLINE相談を受けようとしたけど終了していて全く相談できず…というようなことがあってはならないと思うからです。

LINE相談以外にも、電話による悩み相談窓口を24時間365日開設するなどの取り組みも行なっていますが、こうした電話やLINEによる相談体制の費用は年間で総額4400万円程度です。決して多額ではないのですから、大幅に増額して**電話だけでなくLINEでも24時間365日相談に乗る体制を早急に構築すべき**ではないでしょうか。

次代を担う子どもたち、若者たちを真の意味で支援する、「子ども・若者重点主義」の政策実現を目指し、引き続き活動していきます！



子ども・若者重点主義!

子どもや若者が減少しているにもかかわらず、七人に一人の子どもが貧困、繰り返される児童虐待やいじめ、若者の自死、学費負担の問題等、子どもや若者を巡る環境は決して良くありません。子どもや若者の生活の質の向上、教育環境充実等を目指す政策を強力に推進し、そのための投資は最優先に惜しまず行なうべきです！



働きたい人重点主義!

人口減少に伴う労働力不足にもかかわらず、十分に増えない賃金、増えるのは不安定な非正規雇用ばかりなど、働く環境は依然厳しい状況です。有期雇用者の無期転換等の非正規社員の正社員化、高齢者や障がい者が働く場の拡大、ワークライフバランスの推進等、働きたい人がやりがいを持って働ける環境を早急に実現すべきです！



近所・地域重点主義!

日頃から地域内のツナガリが強い社会は、災害にも強い社会です。コミュニティスクール等による小中学校を拠点にした地域づくり、歩行者や自転車に優しいまちづくり等の推進により、子育てや介護等を近所や地域全体で支え合い、地域の課題は地域で解決する、いつも地域にぎわいのある社会を実現すべきです！



子どもや若者たちが大きな夢を持つ、 高齢者や障がい者が安心して元気に暮らせる静岡県を

将来人口推計が示すように、今後少なくとも数十年間、静岡県や日本の人口は減少し続けると共に、高齢化が進行します。また同時に、人工知能や自動車の全自動運転等、技術革新が加速的に進み、それに伴って、生活様式や価値観、社会の仕組みそのものが大きく変わることが予想されます。

こうした革命的な変化に対応するには、従来の考え方や方法を改め、「人口減少をピンチでなくチャンスと捉えて豊かな静岡県をつくるという新発想」で、今から備えることが不可欠です。そのための活動を、引き続き、川勝知事と共に全力で進めます。何卒、ご理解とご協力をよろしくお願い致します！

静岡県議会議員 すずき さとる



●すずきさとる 略歴

静岡市駿河区生まれ 明治学院大学国際学部卒
英国ケント大学国際関係大学院修士課程終了
元国会議員政策担当秘書 静岡県議会議員（2期）
静岡県議会危機管理くらし環境委員長

〒422-8041 静岡市駿河区中田1-11-19
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716
E-mail: mail@suzukisatoru.net